

国語 (Japanese IV)

担当教員名	善塔 正志	
学科・専攻, 科目詳細	建築学科 4年 後期 2単位 学修単位 講義	
学科のカリキュラム表	一般科目 必修科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 人文科学・社会科学系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-2(30%) E-1(70%)
	JABEE基準1(1)	(a)(f)
科目の概要	テキストの設問に従った学生の発表と、それに対する質疑応答を中心に授業を進行する。日本語を使用する様々な場面での諸問題を取り上げ、日本語の表現と日本人の発想の特徴について、知識の整理、自発的な考察、適切な実践により習得することを目標とする。	
テキスト(参考文献)	野田尚史・森口稔著：日本語を話すトレーニング（ひつじ書房）	
履修上の注意	事前学習を含め、発表と質疑応答に意欲的に取り組み、国語表現に必要な知識と技術を確実に習得するよう心がけること。なお、適宜、資料を配付し、小テストを実施する。	
科目の達成目標	・様々な場面での日本語表現を検討することにより、日本語の歴史と文化を理解し、豊かな日本語表現ができること ・日本語の持つ法則性を考え、また様々な場面の適切な表現方法を身につけ、公的文書の作成ができること ・自身と異なる発想や想像に触れながら感性の増大をはかり、個性的な文章が作成できること ・問題を批判的に検討し、論理的思考力を養い、説得力のある日本語表現ができること ・発表・質疑応答を通して自身の表現力を高め、すぐれたプレゼンテーションができること	
自己学習	目標を達成するためには、授業以外にも予習・復習を怠らないこと。また、発表に際しては十分に準備して授業に臨むこと。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	次の2点の評価方法・基準による総合評価を行い、その結果が60点以上に達する者を合格とする。 【評価方法】 ・定期試験（50％） 中間と期末の計2回実施する筆記試験 ・平常点（50％） 発表及び質疑応答・小テストなど 【評価基準】 ・日本語の歴史や文化、法則性について十分に理解しているか ・場面に応じて適切な音声表現及び文章表現を行うことができるか ・問題の検討や質疑応答に際して論理的に考察できるか	
連絡先	zentoh@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	オリエンテーション 授業の概要 発表予定の立案
第2週	問い合わせをする トレーニング 1 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第3週	お願いをする トレーニング 3 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第4週	誘う・断る・謝る トレーニング 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第5週	インタビューをする トレーニング 7 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第6週	会議で発言する 1 トレーニング 10 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第7週	会議で発言する 2 トレーニング 10 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第8週	中間試験
第9週	分野別課題研究研究 1 受講者に関係の深い事例研究
第10週	やさしい日本語 トレーニング 12 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第11週	プレゼンテーション 1 トレーニング 13 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第12週	プレゼンテーション 2 ・ 研究発表 1 トレーニング 13 ・ 14 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第13週	研究発表 2 トレーニング 14 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第14週	面接 1 トレーニング 15 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
第15週	面接 2 トレーニング 15 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理
期末試験	